

福井 一乃・彩乃 Ichino Fukui / Ayano Fukui

大阪市出身。一乃さん(姉)、彩乃さん(妹)の姉妹で古民家カフェ「のの食堂」を経営。一乃さんは5年前に、彩乃さんは3年前に加西市へ移住。古い日本家屋を買い取り、自分たちでリノベーション(改修)して令和2年2月に食堂を開店。地元で採れた旬の食材を使ったボリューム満点の料理が人気。



お店の情報は
Instagramで確認→
ランチ時は必ず予約を。
車は乗り合いで来てください。



茅葺き屋根の古民家カフェで田園風景を見ながら、手作り料理を楽しむ。中でもオススメはハンバーグ定食。
※妹 彩乃さん(左) 姉 一乃さん(右)



表紙	01
キラリびと	02
特集	行こう! 古代鏡展示館 04
	市政情報 08
	イベントカレンダー 14
	まちかど PHOTO ★ニュース 16
	くらしお役立ち情報 21
	わくわく子育て情報 25
	そうだ! 図書館へ行こう 26
	おくやみ/各種相談 27
	とびだせ! かさいっ子 28
	みんなで使おう加西弁

姉妹で屋号は「のの食堂」

都市部から地方へ。「田舎暮らし」は現代のライフスタイルとして広く受け入れられるようになりました。移住者の中には飲食店を開業する人も多くいる中、都市部とは異なる地方ならではの環境に不安を感じる人も少なくありません。今回は、大阪から加西へ移住し古民家カフェ「のの食堂」を開業した福井一乃さん・彩乃さん姉妹取材しました。そこには、見知らぬ土地で生活し、経営する喜びと努力がありました。

売りは「なじみ」

「店のことでけんかはおくしませんが、でも引かずらない。互いに遠慮のない姉妹だから、うまくやっていけるんです」。姉の一乃さんは笑顔でそう振り返り、妹の彩乃さんは横で頷きます。

加西市上道山町。加西インターを降りて車で進むこと約10分、大自然に囲まれたのどかな場所に二人のお店があります。屋号は互いの名前から1文字ずつ取りました。開店して1年半が経過しますが、SNSや口コミで評判が広まり、今では遠方からもお客さんが訪れる人気店です。2人でホールとキッチンを臨機応変に担当し、メニュー開発は彩乃さんが担当。料理のコンセプトは「なじみのある料理であり、子どもから高齢者まで楽しめるメニューにしています。地元の方からアドバイスやアイデアをもらったことで、メニューも進化していきます。オープン前に地元の人に飲食店をする伝えた時のこと。「加西で

店を始めても人は来へんで」と言われましたが、「立ち寄ってくれた方には満足してもらいたいな」と思いつい、お客さんのために何ができるかというのはいつも考えています。おかげでリピート客もでき、コロナ禍の状況が続く中でも、店を開店してからお客さんが1人も来ない日はないといいます。

いご上道山町へ

平成28年、お母さんと一乃さんが加西市へ移住します。「お母さんが田舎暮らしを希望したんです。たくさん物件を見た中で、こ

こに決めました」。隣接する建物がない、家族との距離が近いなどの条件が合い上道山町への移住を決めました。

出会った物件は築80年の空き家でした。「家族全員で改修しました。骨組み以外はすべて手を加え、電気工事と水道工事以外はすべて手作りです」「最初は作業工程が多すぎて心が折れそうになりましたが、お店をオープンしたい一心で頑張りました」。仕事で店舗設計をしているお父さんの協力を得ながら2年がかりで改修を完了。「夜になると満天の星空が広がり、夏にはひぐらしの鳴き声が聞こえます。これは大阪じゃありません」。移住先も気に入る、上道山町との付き合いが始まります。

地域愛し愛される

はじめは都会から田舎に来た家族を遠くから優しく見守っていた。当時の区長さんもとてつとめかけてくださいました。不安だった移住生活も、町民が温かく迎え入れてくれたことがうれしかったといいます。

姉妹は、草刈りや溝掃除など町の行事にも参加しています。「女性の参加者が少ないので、はじめはびっくりされましたが、皆さんの姿を見て付いていけるように頑張っています」と語る。また、「運動会もあるんです。みんな本気でびっくりしました」とどっぴり田舎生活を楽しんでいる様子。「一番うれしかったことは、地元の方

が話しかけてくださり、田舎暮らしのノウハウを教えてくださいました。当時の区長さんもとてつとめかけてくださいました。不安だった移住生活も、町民が温かく迎え入れてくれたことがうれしかったといいます。

から「友達と言われたことです」。話し出したら感謝の言葉が止まりませんでした。



ちよつどよい田舎

福井姉妹は、移住は賭けだといえます。他の地域に移住した方に話を聞くと田舎ならではの習慣があり、環境の違いに戸惑い、中には移住先を離れる人も少なくないとのこと。「私たちはラッキーでした。加西市民の温かさを身に染みて感じています」。移住を希望する人へ「一度お試しで気になる土地に滞在することをお勧めします。市のお試し滞在補助制度もあるので。インターネットの情報も、自分の足で稼ぐ情報も両方を駆使して移住先を選んでください」と呼びかけました。

加西市の印象を聞くと「生活には不便がなく、ちよつどよい田舎だと思えます。大阪からの距離も、人の距離感もちよつどよいです。そして何より周りの人が良い人ばかりですごく助かっています」と笑顔で魅力を話しました。

描く未来は無限

「加西市でやりたいことはたくさんあります」と意欲に満ちている福井姉妹。一乃さんは手作りの雑貨を手掛け、彩乃さんは幼稚園教諭の資格を生かすため「様々なワークショップを開いてみたい。移住に関する話を聞きに来れるアンテナショップも出来ればと思っています」と話しました。話がつきない姉妹との会話の最後に、一乃さんがにやりと言。「実は妹英語ペラペラなんです」。2人の可能性は無限です。

KASAI データバンク

R3.7.31 現在 (前月比)

人口 / 42,994人 (-69)

男 / 21,134人 (-38) 女 / 21,860人 (-31)

世帯数 / 18,259 (-28)

6月の出生数 / 18人 死亡数 / 48人

● 9/8、22は市民課・国保医療課窓口を延長

(17:15 ~ 19:00)